

福岡学生演劇祭 講評

柴山麻妃(演劇批評家・福岡演劇情報 New Theatre Review)

<はじめに>

参加団体の皆さん、お疲れさまでした。皆さんが楽しんでお芝居をしていること、そして真剣に取り組んでいるのを感じ、うれしいなと思いながら拝見しました。

実行委員の皆さん、お疲れさまでした。審査員依頼のメールから最後まで、細やかな気配りをしていただきありがとうございました。集客も大満足の結果だったと聞いています。大会の成功、おめでとうございます。

<総評>

全団体に共通する問題点を3つ挙げる。

1つ目は脚本の完成度。「テーマ(問題意識)をどう見せるか」について練り直しが必要だと思う。

例えば、参加団体の多くが「内なる世界／外」という対立項を掲げ、そこをどう乗り越えるかをテーマにしていたが、その場合、まず①設定している世界観を細かいところまでクリアにしておくこと ②どう乗り越えるか、なぜ乗り越えねばならないのかを説得力を持って描くこと、が必要になる。(余談だが、わずか30分の芝居なので描き次第ではどちらかだけでも十分に芝居にはなる)この二つが疎かになっていなかったか各自ふり返ってみてほしい。

①については、構想の段階でテーマについてメンバーと深く話し合うことを提案する。(学生劇団だからこそできる事だと思うよ。)矛盾や思い込みを防ぐことになり、なによりテーマ(問題意識)を深いレベルで共有できる。次に、執筆した後に脚本の構成を練り直してほしい。練り直しとは、細々としたセリフの訂正や入れ替えのことではない。テーマが一番伝わる脚本にするための(②)、順序の入れ替え・場面の削除や加筆などを指す。これもまたメンバーに読んでもらいながら、大胆に改稿を重ねてほしい。

2つ目の問題は、照明である。機材を扱う機会が少ないうえに、今回はリハの時間が短く調整が難しかったと聞いている。練習の機会が持てないという現実も分かる。そこで、プロの演劇の映像作品を「照明に着目して」見る、そして照明プランを考えるという勉強会を提案する。照明さんのみならず演出家にとっても勉強になるのではないかな。

3つ目は、演出プランの試行錯誤が足りないという問題だ。脚本の練り直しと同じだが、演出プランの大胆な実験もいくつか試してみる癖をつけてはどうだろうか。(1度でガチッとハマるスバラシイ演出なんてできるはずがない！ どの業界でも、新人や能力不足の人ほど大胆な変更ができないものです…。)その際に「テーマがより伝わるにはどうするか」を軸にしていれば、ぶれることはないはず。

最後にもう一つ提案。今回の作品を、自分たちの反省点と審査員たちの講評も参考に、もう一度やり直してみてもどうか。(テストでも同じでしょ？ やり直し、大事。)同じ作品がどう変わるかを体験すれば、次からの創作も変わってくるだろう。

<講評 上演順に>

*ひだまりがけ『セルロースの狭間』…世界観が統一された芝居だった。なぜアカネが変われたのか、説得力が欲しい。ラストシーン、重要なので全体の空間を使えるようにした方がいい。

*産業医科大学演劇部『ウサギは朝を待つ』…作品や演出の意図が伝わりやすく、評価できる。主人公の孤独が際立つまでには至っていないので、もう少しブラッシュアップを(見直すべくは、舞台装置も含めた空間の使い方、AIの演出、食料発見付近の演技)。

*期会口学『Be Angel, Be Born』…脚本時よりも新興宗教っぽさがあり「何か」を予感させ、舞台の方が面白く感じた。が、作品内容にいくつかの疑問があり不満が残る。赤い「転化に失敗した者(胞)」が肉声ではなくオンマイクで違和感あり。

*福岡教育大学演劇部『カフェ・ド・ミラクル』…真摯に作っている点に好感。ただ、芝居は引き算、セリフで説明するのはやめよう。その割に、主人公がなぜ変化したのか、その大事な部分が描けていない。描かなければならないのはどこなのかを確認しておこう。

*トロイの箱馬『どうしようもなく特別な私』…とある劇団の影響がわかる…。スピード感がありうまく作れていたが、そこからオリジナリティを出していくことも今後は忘れずに。照明と役者の動きがかみ合っていない。全国大会の舞台の大きさに合わせて動きの改変と活舌の訓練を。

*惑星未虎Ⅱ『ジコンクエスト』…ゲームの世界観を使うのはいいが、ゲームそのままの内容を借り続けるのは興ざめ。ラストで勇者が言葉(主張・意思)を持つ…というくだりが唐突に感じる。伏線、あるいはきっかけを作してほしい。「覗き」のシーンについても、「前時代的な感じを出した」と言うが、その効果はない。勇者がそこに疑問を持つシーンであればまだラストに繋がるが。冒頭、足を踏み鳴らすシーンは迫力があり期待が高まる良い始まりだった。

*劇団テスカトル『素晴らしい世界』…徹頭徹尾ふざけたつもりなのか、ラストは大真面目なのか、今一つ私には不明。というのもあまりにも前を向いて芝居をするので、そこまで含めてふざけている(故意な)のか??と(辛辣だったらごめんね)。メタ世界と現実の話だが、重層性が見られず残念。ただ、役者陣が真剣にバカをやっていて(ほめてるよ)好感。

*gekid(大橋キャンパス演劇部)『冷たいくらいがちょうどいい』…舞台空間の使い方が今一つ。奥まっごちよごちよ、見せ場も端っこで…という印象でもったいない。映像で撮って見直してほしい。背伸びしない世界観と突拍子もない要素(冷凍マグロちゃん)のミックスは悪くない。ただ、話に矛盾も(外に出られないのにトモくんが出入りできたのはなぜ?)。役者陣の個性と素直さが高校生(作品設定)らしくてかみ合っていた。

みなさん、作るためにはお芝居を観ましようね…！ 楽しい時間をありがとう。